



5月25日、匿名の市民のかたより、「家族が生前に鳥羽市消防本部の救急隊により複数回搬送され、大変お世話になった」とのことから、消防本部へ軽自動車を寄贈していただきました。

前田消防長は「消防本部では業務で使用する事務車両が足りていなかったため、非常に助かります。これから大事に使用させていただきます」と感謝の言葉を添え感謝状の贈呈を行いました。

消防本部へ軽自動車を寄贈していただきました



堺市博物館（大阪）が所蔵する史料のなかに、慶長3年（1598年）、豊臣秀吉の死後、石田三成をはじめとする五奉行から九鬼嘉隆・守隆父子に対して宛てた書状があることが判明しました。

書状の内容は、勝手に法体（^{ほつたい} 頭髪をすること）しないように命じたもので、嘉隆と守隆が法体しようとしていたことは、これまで全く確認されておらず、新発見の事実となります。九鬼嘉隆が法体になろうとした理由はよく分かっていませんが、秀吉の死への弔意を表すためなどの説が考えられています。

図書館では書状の内容を紹介するミニパネルを展示しています（8月31日（月）まで）。（書状の画像提供：堺市博物館）

水軍の将 九鬼嘉隆に関する新資料発見!!

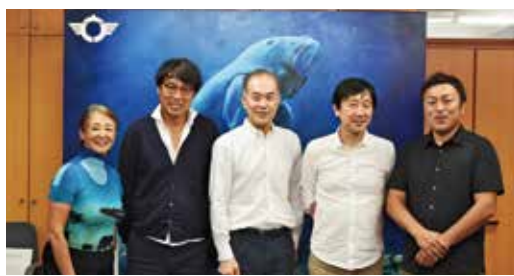


5月28日、令和2年度子供の読書活動優秀実践校・団体の文部科学大臣表彰を受賞した鳥羽高等学校の角屋貴久校長、学校司書の加藤美貴子さんと、鳥羽おはなしの会「ミルキーウェイ」代表の鬼藤千代子さん、世古三穂子さんが市長室を訪れ、受賞報告をしました。

鳥羽高校は授業に必要な図書資料を生徒に紹介し、資料を手に取りやすくする工夫や、俳句展示や江戸川乱歩に関する文化講座などの取り組みが、また鳥羽おはなしの会「ミルキーウェイ」は図書館や学校でのおはなし会などで読書活動の普及や育成に尽力していることが評価されました。

中村市長は「鳥羽の2団体が受賞し、驚きとともにとてもうれしい。文豪ゆかりの地として地域学習にもつながる」と受賞の喜びと感謝を伝えました。

鳥羽高校と鳥羽おはなしの会「ミルキーウェイ」が文部科学大臣表彰を受賞!



6月3日、伊勢志摩地域を舞台にした映画『法定相続人』の制作に関し、田中光敏監督、脚本家の児島秀樹さんらが市長を訪問しました。

田中監督は「三重県下のたくさんのかたの力を借りて、とびきりの風景や人の思いを紡いでいきたい」と話しました。

中村市長は「鳥羽にも離島の路地や海女、海藻、真珠などすばらしいものがたくさんある。映画の力はすごいのでぜひいっしょに地域一丸となって盛り上げていきたい」と話しました。

映画は、2022年の秋ごろに全国規模での公開を目指しています。

伊勢志摩を舞台にした映画の制作が始動!